

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立小城中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業にめあてをもって取り組む生徒の割合が高いが、総合的な学力の定着が課題である。</li> <li>望ましい健康的な生活を送る生徒の割合が高く、次年度も生徒や保護者へ適切な情報発信を行い、生徒会活動と連携して保健教育の充実を図る。</li> <li>不登校への事前・事後対応では8割以上の生徒や保護者が学校の支援体制に理解を示している。関係外部機関とも適切に連携していく。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	自他を認め合い、共に学び続ける生徒の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>進路保障を念頭に確かな学力を身につけ主体的に「なりたい自分」に近づける学習指導を実践する。</li> <li>人権・同和教育、道徳教育、学級活動等を更に充実させ、自他を認めよりよい支持的風土のある集団作りを目指す。</li> <li>「雑談」を通して、気軽に情報交換をし、明るく前向きな職場を目指す。</li> </ol>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	○生徒が学習に見通しをもって授業に取り組む、自らの活動を振り返り、より具体的な見通しを持たせる。	○生徒アンケートにおいて、「学習に具体的な見通しをもって取り組むことができた」と回答する生徒が80%以上	A	「生徒が学習の見通しをもてる手立てをとった」と回答した職員が100%。「授業のまとめで次時のより良い見通しを持たせるとり返り」を行った職員が92.3%。校内研究での取り組みが授業に反映されている点が多いと答える。生徒が主体的に学習、行動できるような実践をさらに深め、自己肯定感が高まるようにする。	A	「学習に見通しをもって取り組むことができた」と回答した生徒が85%と目標を大きく上回った。また、「一日の家庭での学習時間が1時間以上」と回答した生徒が40%と昨年度より増加しており、自己指導能力の高まりが感じられる。保護者からは、「日々の授業やテストを振り返り、見通しをもって学習に取り組んでいる」との回答が50%と結果だったので、さらに校内研究を充実させ成果につなげていく。	A	「教育活動に非常に熱心に取り組んでいただいている。」「学習に関する生徒及び保護者のアンケート結果で「あまりあてはまらない」の回答が一定数あるのが気になる。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をする生徒が80%以上	A	「学校行事、つながるタイムなどの活動を生徒間で共有し、互いを認め合う活動につながり」と回答した職員が93.9%。「教科担任や担任、副担任等が連携して差別や人権に関する授業を実施した」と回答した職員が91.2%。普段の生徒とのかかわりの中で道徳や人権を意識した活動が職員が行っている。今後、今後は重点を明確にした活動を行い、生徒一人一人や道徳について考える機会を持たせていく。	A	「道徳授業時の振り返りにおいて、「自分の経験を振り返りながら考えることができた」とした回答が95.1%であった。」「保護者による評価では、「道徳の授業を通して心豊かな生徒の育成につながっている」とに対して80.0%の肯定的な回答があった。一方、振り返りの回答のうち、12.8%の保護者から「分からない」と回答があった。情報発信を適切に行うことで次年度改善ができると考えられる。	A	「生徒や保護者のアンケート結果から、取組目標を達成されている。引き続き取り組んでいただきたい。」	・道徳教育推進担当		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員アンケートにおいて、「いじめの兆候を捉えて、適切に初動対応がとれていた」とする職員が90%以上	A	「職員間で細やかに情報共有を取り組む。」「方針や方向性を共有し、組織的な生徒指導を取り組む。」	A	「職員間で細やかに情報共有を行い、指導に取り組んだ」と回答が83.3%。情報共有だけでなく、学年部会で情報の発信や収集を行う。」「指導や支援の方針や方向性を共有し、組織的な生徒指導を取り組んだ」と回答は100%。」「生徒指導部から方針を明確にし、普段の情報共有や生徒部会等での発信だけでなく、学年部会等でも共有や協議を入れていく等で改善を図る。	A	「熱心に指導に取り組んでおられる。PDCAを回して、次年度につなげていただきたい。」	・生徒指導主事		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒75%以上	A	「学級活動を通して、将来につながる今の学びの意味や自分らしい進路選択について考えさせる。また、自分自身の個性や適性を考える機会を与え、将来に向けて考えを深めさせる。」「教育相談や三者面談に向けた二者面談を通して、個に応じた進路指導ができるよう、生徒の考えや不安を聞き取る。」	A	「総合的な学習の時間を通して地域に根差した進路学習を進めることができた。」「中学校卒業後や将来の進路について考えさせる時間を増やした。」「進路指導の機会を共有し、進路学習の時間的・計画的に進め、生徒に将来の目標を定めてもらう手立てを教育活動の中で実践した。」「生徒のキャリア形成を伸ばすための手立てを教育活動の中で実践した」と考える職員が40%を超っており、今後は今までの学習内容の見直しをする必要があると考える。	A	「各学年の進路学習を設定し、将来の夢や目標を追求する機会を与えることができた。その中で、生徒が探求心をもって学習に取り組むことができた。」「教育相談や三者面談を通して進路指導を進め、生徒に寄り添った教育活動を実施することができた。これらの学習活動を来年度も実践できるような本年度の取り組みを振り返り、次年度へ引き継いでいく。」	A	「適切に取組が行われている。引き続きお願いしたい。」	・進路指導主事
	○人権・同和教育の充実	○社会科担当と学級担任が連携して人権に関する授業を年1回以上実施する	A	「社会科で部落史に関する授業を実施する際に、事前担当等に連携した授業を行う。」	A	「1学期に、2学期に「江戸時代の身分制度」の単元で階級制を扱い、担任による遠征授業を行った。2学期は、3学期で「平等権」の授業を行い、ハンセン病を題材とした差別解消する道徳授業を行った。3学期には、1学期で「室町文化」の単元学習に合わせて、担任による道徳を行う。」	A	「計画に沿って取組が行われており、職員及び生徒の人権意識の醸成につながっている。」	・児童生徒支援教員		
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	B	「保健だよりや掲示物等の活用、生徒会保健部と連携を図りながら学校保健活動を行う。」「保健室来室者や自分の心身の状態を振り返り、共に対応を考えて今後に生かす保健指導を行う。」「家庭科や保健体育などの教科と連携し、体力づくりや食事、睡眠の重要性について授業に取り入れる。」	A	「睡眠や食事などの規則正しい生活習慣を心がけて生活を送ることができた」と答える生徒が93.9%であった。また、保護者回答においても、「ほげけんだより等で情報発信をして感染症予防に努めている」との回答が93.7%であった。」「日頃の保健指導や各教科の取り組みを通して、規則正しい生活習慣や感染症予防について、発信することができた。」	A	「健康維持に対する適切な情報提供がなされていることがアンケート結果からも伺える。引き続き、情報発信に努めていただきたい。」	・保健主事		
●特別支援教育の充実	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	B	「部活動ガイドラインに沿って、練習時間、休養日を遵守する。定時退勤を促す。」「定期テスト、始業式や終業式の午後には会議を入れずに年休取得推進日とする。」「校務支援システムの有効活用を推進する。」	A	「時間外在校等時間の上限の遵守ができていない職員があり、100時間以上になった職員もいた。」「年間を通して、部活動では、平日1日・休日1日の休養日の設定を行った。また、始業式・終業式等では、午後に会議を入れずに年休取得推進日となるようにした。」「9月の終わりに校務職の見直しを行い、締りの会終了時間が20分早くなり、職員の運動時間も早くなった。」	A	「先生方の働き方改革が昨年度より進んでいる。」	・管理職		
	○教職員の健康管理に関して、働きやすい職場体制づくり	○校務分掌を適材適所で配置し、組織的・計画的に取り組む職員の割合を85%以上にする。	B	「毎週実施している企画委員会でも、時間外勤務の状況を知らせ職員間で共有し改善を図る。」「人間ドックなどの再検査を必ず受診させる。」	A	「校務分掌において組織的・計画的に取り組んだと回答した職員の割合は89%で取り返り目標を達成できなかった。」「72.2%の職員が積極的に年次休暇を取得できている。」「企画委員会でも、時間外勤務の状況を職員間で共有し改善を図る。」	A	「職員がチームとなって取り組んでおられる。今後も推進していただきたい。」	・管理職		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の理解に関する研修を実施し、職員の対応力の底上げを図る。	○職員アンケートで「特別支援教育の視点をもって対応にあたることができた」と回答する職員が85%以上	B	「長期休業中に講師を招聘した研修を実施し、職員の特別支援教育への理解を深め、実践につなげる。」	B	「特別支援教育の視点を取り入れ、生徒の「耳を傾けたい」などの指導や支援を行った。」「特別支援教育の視点について、今年度も学校の取組について外部への情報発信に取り組んでいく。」	A	「課題を適切に抑えたと上で、改善を図っておられる。」	・特別支援コーディネーター		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○不登校対策の充実	○不登校の未然防止と不登校支援の充実	○定期教育相談の実施により、生徒の思いを汲み取り、不登校の未然防止に努める。 ○校内教育支援センターの有効活用により、生徒の進路実現をサポートする。	B	「4月と11月に定期教育相談期間を設け、生徒に事前アンケートをとり、それをもとに担任を中心に教育相談を実施する。学年で情報を共有し、初期対応を迅速に行う。」「校内教育支援センターの環境を整備するとともに、保護者と連携しながら、教科指導等、全職員で支援にあたる。」	B	「Q-UPアンケートや教育相談を活用し適切に対応できた」との項目に「そう思う/少し思う」が94%の回答。課題解決の約1/3が達成できなかったため、正式な対応をしながら適切な支援につなげていく。」「校内支援センターや外部機関と連携して不登校生徒の支援を行った。」「項目に「そう思う/少し思う」が91%であった。関係機関とも連携できていない点もいくつかあり、卒業後の適切な支援先を提案していく予定だ。」	B	「Q-UPアンケートや定期教育相談を活用し、9割以上の職員が生徒理解や親との連携材料につなげるなど適切な対応に努めた。また、SOやSSWなどの機関につながり、状況が好転した指導事例も多い。」「ただ、生徒アンケートでは「相談につながり」の項目に約3割が「あまりあてはまらない」/「あてはまらない」と応えており、職員と生徒との意識差が十分できていない可能性もある。日々の学校生活の中でどの生徒にも何気ない会話ができる時間を確保し、教育相談を生かしていきたい。今年度以上に、支援機関や相談機関を保護者へ発信していきたい。」	B	「多感な生徒や複雑な環境を抱える生徒が増加している。生徒や保護者に寄り添った対応をお願いしたい。」	・教育相談主任
○生徒会活動の活性化	○学校行事の主たる運営を生徒主体で行う	○生徒アンケートで「各学校行事に主体的に取り組むことができた」と回答する生徒が80%以上	B	「学校行事において実行委員会を設置し、目標やテーマをもち、準備・企画・運営等に当たらせる。」「生徒会役員を中心に、次年度以降にさらに生徒主体で学校行事に取り組むことができるよう、話し合う場を設置し改善につなげる。」	B	「学校行事で実行委員会を設置し、準備や企画運営に生徒を主体的に関与させることができた。達成状況は94%。実行委員会を中心に活動を進めることができた。次年度以降は、実行委員会を軸とした活動の中で、実行委員会の進め方を生徒を軸として考えていく必要があると思われる。また、実行委員会を生徒会役員が中心に行っているが、活躍の場の確保のため公募制も検討に入れていきたい。」	B	「9割以上の教職員が学校行事で実行委員会の設置ができた」と回答し、委員会を中心に学校行事を進めることができた。次年度以降は、実行委員会の募集方法を検討し、多くの生徒が主体的に活動できる場を設定し、様子を発信していきたい。」	A	「子どもたちの願いを中心に据えた活動に向け、先生と生徒が話し合い、納得感をもって活動できるよう支援と指導をお願いしたい。」	・生徒会担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活面及び学習面における「見直しー行動ー振り返り」のAARサイクルのスパイラル化の推進(校ノートの有効活用)</li> <li>特別支援教育の視点をもった学習指導及び生徒指導の充実(職員への適切な情報提供と研修の実施、生徒への視覚的支援、保護者への取組の情報発信)</li> <li>生徒に向き合う時間を確保するための働き方改革のより一層の推進</li> </ul>